情報学概論II 第4回

企業情報学部

5/10

情報学概論2 第4回 (5/10)

(Introduction to Informatics 2)

ファイル 種類 拡張子

1PDFファイル

a. PDF の概要と歴史

• <u>PostScript言語からスタート</u>した(こういう<u>解説的なページ</u>もある)。

対抗するコンソーシアム主導の規格として <u>XPS</u> がある。



PostScript (XPSでも)は、右図のように、コンピュータから直接プリンタ出力を行う代わりに、一旦この形式のファイルを作っておいて、そのファイルを(場合によってはネットやUSBメモリ等で携行・転送して)別の場所で印刷する際にも使われる。
 この形式だと、プリンタやPC環境を問わずほぼ同質の印刷出力が得られることがメリット。

b. PDF を作る

- Typoraの中から
 - (ファイルメニュー) エクスポート
 - (内部で pandoc を (うまく) 使っているようだ。)
 - Pandocを直接使う
 - 前々回資料
 も参照



1. コマンドプロンプト起動

(何度かお伝えしているが)ソースファイルを置いた場所で開くこと。

2. pandocコマンドを動かしてみる

pandoc ソースファイル名

3. 出力ファイル(と形式)を指定する



コマンドの文法

- リダイレクト記号 > で出力先指定できることは伝えたが、
- -oオプションで指定することで出力先の形式も同時に指定できるのでこちらがオスス メ。
- コマンドプロンプト等のCUIを使う際の前提知識として、「空白区切り」つまり、 (英 語等の文章と同じように)空白が単語と単語の間の境目を示す記号として (暗黙の合意 事項として)使われていることを認識しておくこと。

 - がどう対処しているか少し理解できる。

4.変換コマンド

 Pandoc は PDF生成部分には外部エンジンを借用するため、その外部エンジンを用意して おき、必要に応じて --pdf-engine=... オプションで指定することになる。



- 。現在の pandoc では platex がデフォルトになっているが、手軽でない、日本語表示 でうまく動作しない等の問題があるようだ。
- 。 windows では wkhtmltopdf が手軽そうだ(まずこれをインストールしておこう)

pandoc ソースファイル名 -o 出力先.pdf --pdf-engine=wkhtmltopdf

練習1



PDF作成

- 右図のように3種類の方法でPDFを作成してみて下さい(あとで比較もしてみますので それぞれ別々のファイル名で)。
- c. PDF を開く (プレビュー(?))
 - PDF を表示できるアプリケーションは、Adobe 社による Acrobat Reader / Adobe Reader 以外にも多数あり、
 - Webブラウザもその機能を内蔵(または拡張機能として装備)していることが多い。
 - また、PDFを直接編集できるアプリケーションもある。
 - (右下図)エクスプローラなどの画面上で当該ファイルをダブルクリック(または Enter などの操作)で、 標準の(自分のPC上で 拡張子 .pdf に関連づけられた)アプリ ケーションが起動する。



PDFを開く操作

 ・ 起動するアプリケーションを切り替えることもできる。方法としては(<u>昨年の授業でも</u> 扱った</u>が)
 1. コンテキストメニューから「プログラムから開く」で選択する、か、

- 2. あらかじめアプリケーションを開いておいて、「開く」メニューでファイルを見つ ける、か、
- 3. アプリケーション (の、開いた窓、或いはアイコン)の上に、ファイルをドラッグ&ド ロップする

といった方法が使えるようにしておくこと。

d. PDF (の中) を眺めてみる

練習2

• 練習1で作成したPDFファイルを、テキストエディタで開いてみる。

課題

上記の練習2を行なってみて、
1. どのエディタを選び、
2. どんな方法で開いたか。
3. 開いて眺めてみてわかったことについて報告して下さい。

以下は来週扱います

(ここをクリックすると表示が切り替わります)